

令和2年（2020）7月豪雨

対応の記録

7月8日（水）・9日（木）

社会福祉法人 光仁会 富竹の里

目次

第1章 令和2年7月豪雨を振り返る

- 1 豪雨の状況（2）
- 2 令和元年台風第19号（10月12日）と令和2年7月豪雨（1日～8日） 降水量の比較（3）
- 3 避難当日（7月8日）の雨雲の動き（4）

第2章 河川等の状況を振り返る

- 1 富竹の里入り口の用水路の状況（5）
- 2 河川の状況（5）

第3章 情報の把握を振り返る

- 1 長野市防災情報ポータル（8）
- 2 千曲川河川事務所 千曲川・犀川ライブ映像（8）
- 3 国土交通省 川の防災情報（8）
- 4 気象庁 防災情報（8）

第4章 避難を振り返る

- 1 河川等の状況とその対応（9）
- 2 避難の状況（10）
- 3 避難誘導と避難場所での生活（11）

第5章 各事業所の対応を振り返る

- 1 富竹の里デイサービスセンター（12）
- 2 富竹の里ホームヘルプセンター（12）
- 3 光仁会富竹の里介護支援センター（12）
- 4 長野市地域包括支援センター富竹の里（12）
- 5 介護付有料老人ホーム上松ホーム（12）

第6章 災害対応の検証・検討を振り返る

- 1 避難対応行動等における課題等（13）

第1章 令和2年7月豪雨を振り返る

1 豪雨の状況

2020年（令和2年）7月3日以降に熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨です。同年7月9日に気象庁が命名しました。

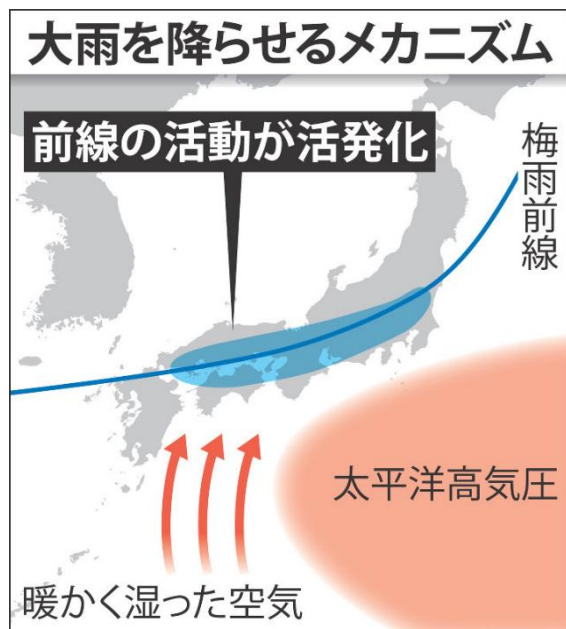
7月3日夜から低気圧や梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、鹿児島県薩摩地方・大隅地方で3日夜から4日朝にかけて、熊本県南部で4日未明から朝にかけて、局地的に猛烈な雨が降り、気象庁は4日4時50分に大雨特別警報を熊本県・鹿児島県に対して発表しました。これらの地域では発達した雨雲が連なる線状降水帯が生じた可能性があります。

5日夕方から6日午前にかけては、鹿児島県薩摩地方・大隅地方で局地的に猛烈な雨が降り、鹿屋市などで記録的な大雨となりました。

6日から8日にかけては、停滞する前線の影響で、長崎県、佐賀県、福岡県筑後地方、大分県、熊本県北部で局地的に猛烈な雨が降り、気象庁は6日16時30分から7日11時40分まで、長崎県・佐賀県・福岡県に大雨特別警報を発表しました。

8日には東海地方から甲信地方でも大雨となって、8日6時30分に岐阜県、同日6時43分に長野県に大雨特別警報を発表しました。

熊本県を流れる球磨川水系は、八代市、芦北町、球磨村、人吉市、相良村の計13箇所で氾濫・決壊し、約1060ヘクタールが浸水しました。球磨村沿川の施設では、水没した施設で入所者14人が死亡しました。



2 令和元年台風第19号(10月12日)と令和2年7月豪雨(1日~8日) 降水量の比較

【千曲川観測所】

単位 mm

	野辺山	北相木	白樺湖	立科	佐久	鹿教湯	軽井沢	東御	上田	菅平	長野	合計
① 10/12	171.0	395.5	228.5	264.0	303.5	320.0	314.5	148.5	143.0	270.0	132.0	2690.5
07/01	29.0	16.0	15.5	9.0	6.5	16.5	11.5	11.0	10.5	14.0	13.5	153.0
07/02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
07/03	15.5	12.0	25.5	14.0	12.0	15.5	14.0	8.5	17.0	8.0	7.5	149.5
07/04	32.0	18.5	51.0	40.0	26.5	38.5	33.5	27.5	23.0	28.5	29.5	348.5
07/05	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
07/06	46.5	13.5	57.5	29.5	28.5	61.45	41.5	32.5	37.0	27.0	19.5	394.5
07/07	2.5	0.5	20.5	6.5	0.5	25.5	13.0	6.0	8.0	14.5	11.0	108.5
07/08	29.0	23.0	44.0	45.0	46.0	58.0	49.5	43.5	41.5	45.5	52.0	477.0
② 合計	154.5	83.5	214.0	144.0	120.0	215.5	163.0	129.0	137.0	137.5	133.0	1,631.0
②-① 差	-16.5	-312.0	-14.5	-120.0	-183.5	-104.5	-151.5	-19.5	-6.0	-132.5	+1.0	-1,059.5

【犀川観測所】

単位 mm

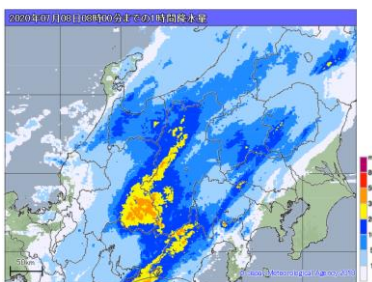
	松本 今井	松本	上高地	穂高	大町	聖	信州 新町	白馬	鬼無里	小谷	合計
① 10/12	119.0	134.0	80.5	95.0	93.5	242.0	163.0	92.5	113.5	136.0	1,269.0
07/01	5.0	4.5	26.0	3.5	31.0	4.5	16.0	19.5	22.0	18.5	150.5
07/02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
07/03	18.5	18.0	22.0	16.5	13.0	15.5	10.0	12.5	12.0	7.5	145.5
07/04	42.5	34.0	79.0	30.0	39.5	34.5	29.5	42.5	35.5	53.0	420.0
07/05	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
07/06	47.5	33.0	92.0	30.5	47.0	29.5	26.5	60.5	33.0	36.5	436.0
07/07	14.0	16.5	160.5	21.5	36.5	15.5	21.0	35.0	20.5	26.5	367.5
07/08	46.5	47.0	115.5	46.5	49.0	58.5	65.5	36.0	53.0	53.0	570.5
② 合計	174.0	153.0	496.0	148.5	216.5	158.0	168.5	209.0	177.5	199.0	2,100.0
②-① 差	+55.0	+19.0	+415.5	+53.5	+123.0	-84.0	+5.5	+116.5	+64	+63.0	+831.0

《再掲載》

	千曲川流域	犀川流域	合計
①令和元年台風第19号	2,690.5 mm	1,269.0 mm	3,959.5 mm
②令和2年7月豪雨	1,631.0 mm	2,100.0 mm	3,731.0 mm
差(②-①)	-1,059.5 mm	+831.0 mm	-228.5 mm

3 避難当日（7月8日）の雨雲の動き

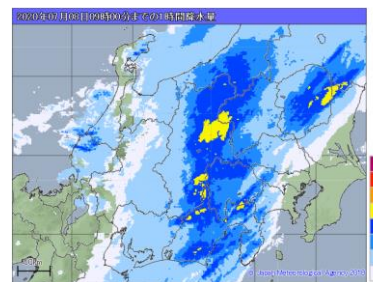
① 8 : 00



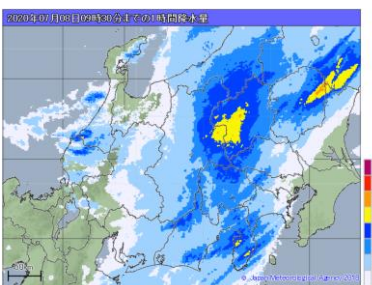
② 8 : 30



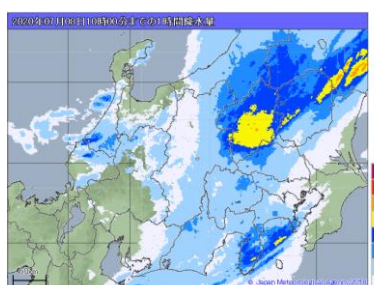
③ 9 : 00



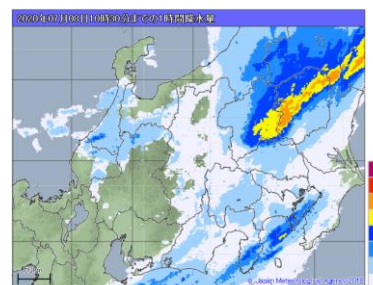
④ 9 : 30



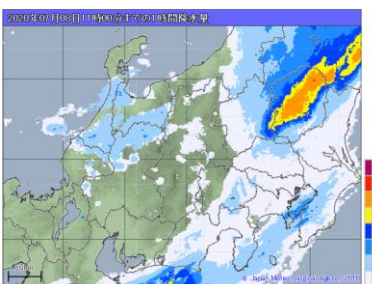
⑤ 10 : 00



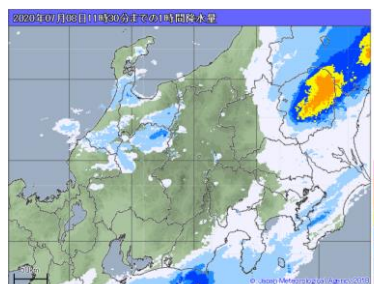
⑥ 10 : 30



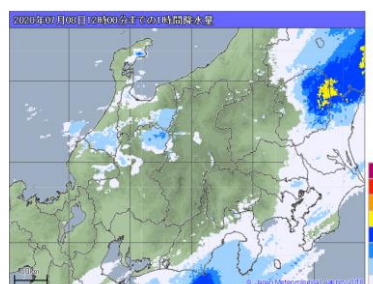
⑦ 11 : 00



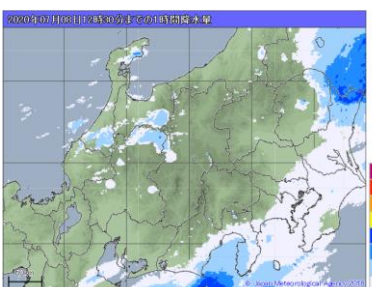
⑧ 11 : 30



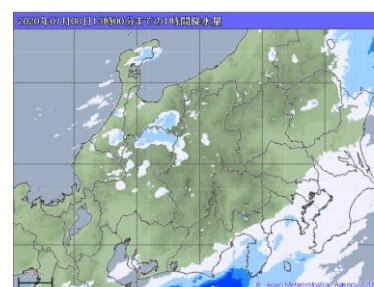
⑨ 12 : 00



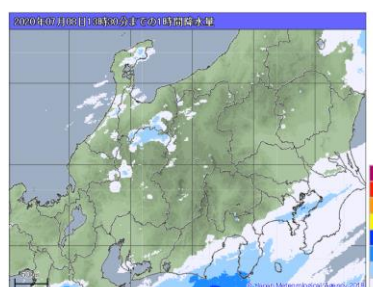
⑩ 12 : 30



⑪ 13 : 00



⑫ 13 : 30



- 気象庁は8日朝、「これまでに経験がないような大雨になっている」として、岐阜県（6：30）に続き、長野県（6：43）にも「警戒レベル5」にあたる「大雨特別警報」を発表しました。
- これは、去年から導入された5段階の「大雨警戒レベル」のうち最も危険性の高い「命の危険」があることを示す「レベル5」の情報で、住民に命を守るための最善の行動を強く求めるものです。
- 避難開始8時頃、14時過ぎ頃まで非常に激しい雨となる予報でしたが、幸い天候は回復しました。

第2章 河川等の状況を振り返る

1 富竹の里入り口の用水路の状況

- 7月8日 10:00 撮影
- 同日8:00頃（避難決断時）、激しい雨により水路はあふれた。



2 河川の状況

(1) 浅川富竹観測所（長野市富竹3番地）

水防待機水位	はん濫注意水位	避難判断水位	はん濫危険水位
1.20m	1.80m	2.50m	3.00m

単位 m

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00
水位	1.11	1.41	1.70	1.80	1.71	1.56	1.36	1.29	1.22

(2) 中野市立ケ花の時刻水位

水防待機水位	はん濫注意水位	避難判断水位	はん濫危険水位
3.00m	5.00m	9.10m	9.60m

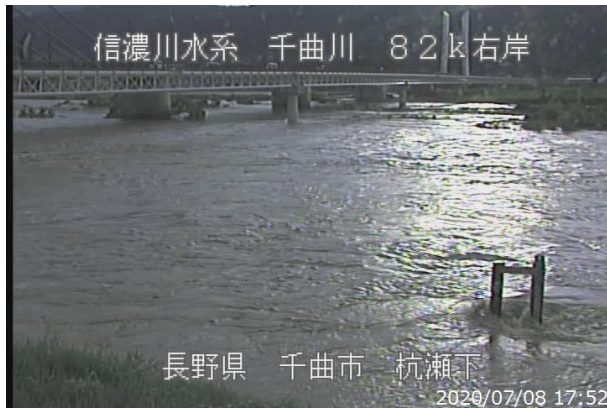
単位 m

7/8	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時
	3.67	3.70	3.73	3.76	3.80	3.85	3.96	4.14	4.49	4.97	5.47	5.92
7/9	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時
	6.21	6.51	6.77	7.03	7.23	7.31	7.28	7.19	7.05	6.85	6.60	6.36
7/8	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時
	6.12	5.87	5.63	5.41	5.19	5.02	4.83	4.64	4.50	4.40	4.31	4.23
7/9	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時
	4.14	4.06	3.97	3.91	3.81	3.75	3.68	3.61	3.55	3.49	3.44	3.41

(3) 千曲川・犀川ライブカメラ

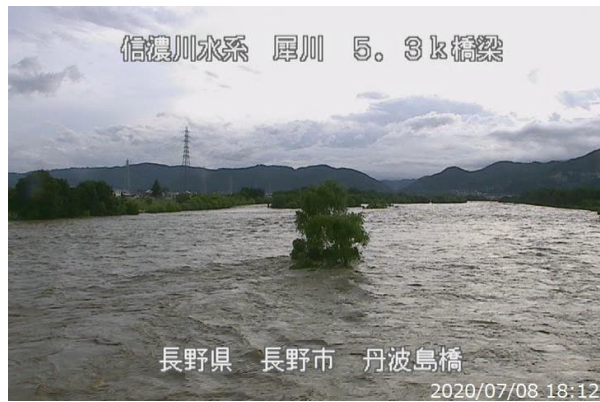
今回

平常時



今回

平常時



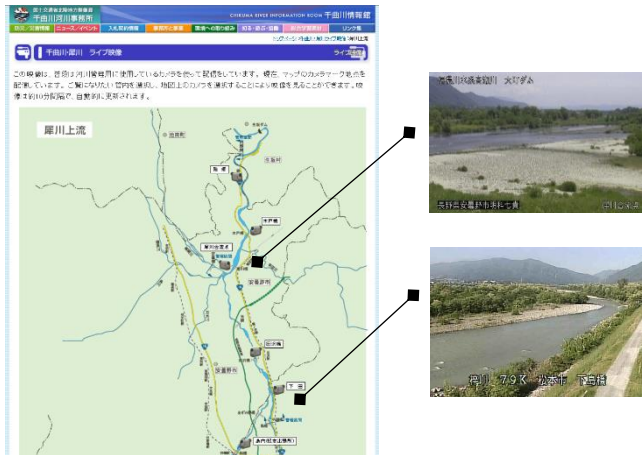
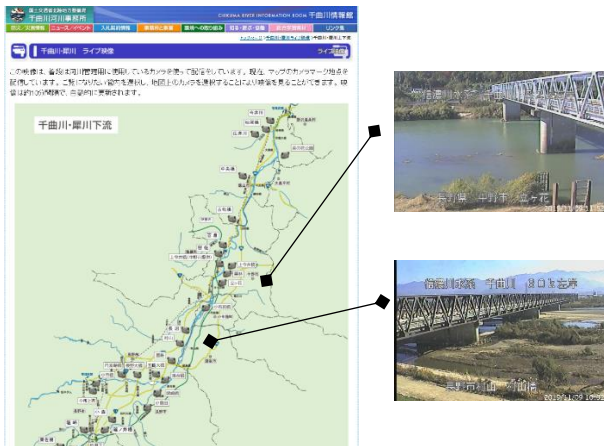
第3章 情報の把握を振り返る

1 長野市防災情報ポータル

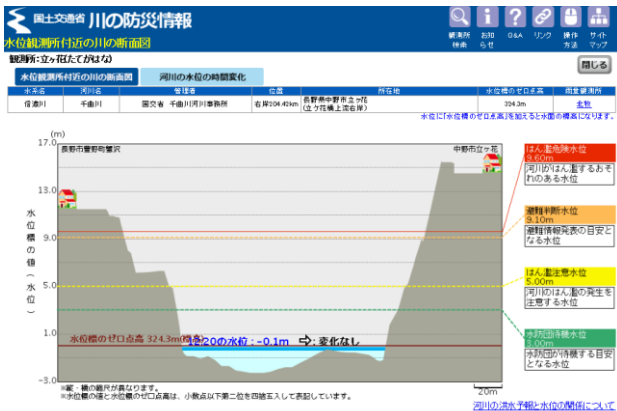
今回の豪雨では、避難に役立つ情報の発信はなし。



2 千曲川河川事務所 千曲川・犀川ライブ映像

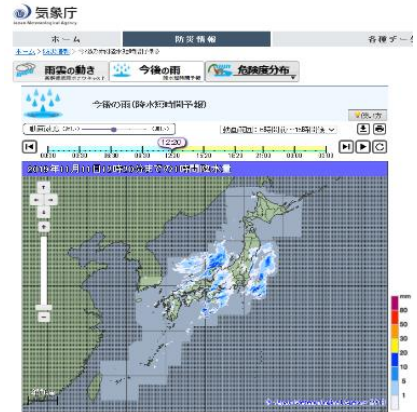


3 国土交通省 川の防災情報



観測所名	水名	河川	単位	観測値	警戒値	危険値	観測時刻	所在地
千曲川(千曲川下流)	千曲川	千曲川	0.07	1.00	1.50	2.00	2019年09月02日 08:00	長野県佐久郡小川町千曲川
千曲川(千曲川上流)	千曲川	千曲川	0.07	1.00	1.50	2.00	2019年09月02日 08:00	長野県佐久郡小川町千曲川
千曲川(千曲川中流)	千曲川	千曲川	0.07	1.00	1.50	2.00	2019年09月02日 08:00	長野県佐久郡小川町千曲川

4 気象庁 防災情報



雨雲の動きや今後の雨の情報等を見ることができます。

第4章 避難を振り返る

1 河川等の状況とその対応

	河川等の状況	対応	詳細
7/6 (月)	7月1日からの降雨量 犀川流域 1,162.0 mm 千曲川流域 1,045.5 mm 立ヶ花観測所最高水位 (24時) 2.75m ※ 2020年7月最高水位	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市危機管理防災課連絡 今後の予測等確認 ・いつわ苑連絡 (避難受入確認) ・入口用水路増水時の対策 用水と道路のさかいにポール2本設置 	
7/7 (火)	7月1日からの降雨量 犀川流域 1,529.5 mm 千曲川流域 1,154.0 mm 立ヶ花観測所最高水位 (24時) 3.66m	<ul style="list-style-type: none"> ・避難物品用意 ・送迎車ガソリン確認 ・通所介護受入調整確認 	
7/8 (水)	06時30分 岐阜県大雨特別警報発表 06時43分 長野県大雨特別警報発表 08時00分 浅川富竹観測所水位 1.7m 立ヶ花観測所最高水位 (8時) 4.14m 7月1日からの降雨量 犀川流域 2,100.0 mm 千曲川流域 1,631.0 mm 立ヶ花観測所最高水位 (18時) 7.31m ※ 2020年7月最高水位更新 13時08分 小田切ダム全開 立ヶ花から上流にかけ、 畑浸水の予測を確認	06時50分頃 事務職員等招集 全利用者起床 利用者・職員トリアージ 通所介護受入調整 07時00分 危機管理防災課連絡 07時05分 高齢者活躍支援課連絡 07時07分 給食委託業者連絡 07時30分 いつわ苑連絡 (受入可) 07時41分 職員緊急参集連絡 07時45分頃 用水路はん濫 (冠水無) 08時00分 高齢者活躍支援課連絡 (避難許可) 08時03分 避難決断・避難開始 08時10分 ご家族一斉連絡 (1報) 10時04分 ご家族一斉連絡 (2報) 14時35分 ご家族一斉連絡 (3報) 16時12分 ご家族一斉連絡 (4報) 09時40分 雨止み 避難中断 11時30分 避難再開 14時00分 避難完了 (約4時間)	
7/9 (木)	10時12分 小田切ダムの余裕確認 千曲川・犀川水位低下確認	避難2日目 09時45分 ご家族一斉連絡 (5報) 10時30分 戻り決定 10時56分 ご家族一斉連絡 (6報) 12時30分 戻り開始 15時30分 戻り完了 (約3時間) 16時14分 ご家族一斉連絡 (最終報)	

2 避難の状況

○避難開始 7月8日(水) 8時

- ↑ 【避難人数】
- ・富竹の里 50名、富竹の里和み 20名、富竹の里ショートステイホーム 8名 合計 78名
 - ・特養当日勤務職員 30名、休日職員 8名 合計 38名
 - ・他事業所職員 10名
 - ・軽リフト車(車イス1人乗車) 4台
合計 5台使用
 - ・危険箇所を避けるため、市道1級柳原古里線使用
 - ・正面玄関からエレベータを使い3階へ誘導
- ↓

○避難中断 9時40分(予報よりも早く雨が降り止んだため、22名の避難完了で中断)

- ↑
- ・危機管理防災課へ連絡するなどの情報収集
 - ・約1時間50分中断
- ↓

○避難再開 10時30分(千曲川、犀川水位上昇のため)

- ↑
- ・残り 56名
- ↓
- ・キャラバン1台(最大車イス4人乗車)追加導入

○避難完了 14時00分 避難に要した時間 4時間10分

○帰宅開始 7月9日(木) 12時30分

- ↑
- ・富竹の里 50名、富竹の里和み 20名、富竹の里ショートステイホーム 7名 合計 77名
 - ・職員数約 40名
 - ・キャラバン1台、軽リフト車3台の合計4台使用
- ↓

○帰宅完了 15時30分 帰宅に要した時間 3時間



冠水危険エリア



インカムによりスムーズに避難誘導が実施できた。

いつわ苑 ⇔ 富竹の里 628m

3 避難誘導と避難場所での生活



軽リフト車での搬送



大型福祉車両での搬送



避難先での様子



避難先での夕食準備



夕食



夜間の様子



2日目朝食準備 施設で調理・盛り付け



朝食

第5章 各事業所の対応を振り返る

1 富竹の里デイサービスセンター

	対応状況
7/7 (火)	明日 (7/8) の受入調整確認
7/8 (水)	利用者受入調整、利用者 15 名、職員 1 名避難サポート 基準緩和通所サービス休業
7/9 (木)	通常営業

2 富竹の里ホームヘルプセンター

	対応状況
7/8 (水)	避難サポート その他通常営業
7/9 (木)	帰宅サポート その他通常営業

3 光仁会富竹の里介護支援センター

	対応状況
7/8 (水)	避難サポート その他通常営業
7/9 (木)	帰宅サポート その他通常営業

4 長野市地域包括支援センター富竹の里

	対応状況
7/8 (水)	避難サポート その他通常営業
7/9 (木)	帰宅サポート その他通常営業

5 上松ホーム

7/8 (水)	通常営業
---------	------

第6章 避難対応の検証・検討を振り返る

避難対応行動等における課題等

- 富竹の里だけではなく、千曲川・犀川沿川では、台風第19号の経験により、避難実施施設が複数あった。
- 降水線状帯は、台風とは異なり、急な発生などから降水量の予測が困難である。
- 避難判断は自らが行う必要があり、自治体などの指示で避難判断や場所を決めるものではない。
- 降水量や水位、その他行政以外の者などから独自に情報を入手し、避難判断や場所を決める必要がある。
- 利用者トリアージは、職員により判断基準が異なるためマニュアル（順番リスト）を作成する必要がある。原則は、長時間車いすなどでも体調を崩しにくい方が優先的に避難する。
- 常時、避難グッズを用意しておく必要がある。
- リーダーは一人ではなく、複数いる必要がある。
- 育成までに時間がかかるが、意識の高揚が必要である。
- 特養等の施設長間で、「災害等緊急通知用」としてライングループを作り、災害が想定される際には連絡を取り合う。
- 長野市と共同で、市内の福祉等の事業所で「防災会議」を定期的を開催する、
内容：避難訓練の取り組み、現実的な避難場所の確認、施設ごとの避難確保スペースの有無とその広さの確認、協定締結状況、より一層の連携と顔が見える関係づくり など

高齢者施設78人 早め避難

台風19号被災の長野・富竹の里

昨年の台風19号で千曲川の堤防が決壊した長野市では、県内に大雨特別警報が発令されたことを受け、特別養護老人ホームなど高齢者施設を運営する社会福祉法人「富竹の里」が「避難が難しくなってきたら遅くは遅く、入所者七十八人を近くの高齢者総合施設の三階に自主避難させた。嶋田直人施設長(仮名)によると、避難を開始したのは

午前八時。周辺の用水路から水があふれそうになっていたため、避難情報は出ていなくても避難を決めた。入所者の平均年齢は九十歳近くで、要介護度の平均は五段階の上から二番目の「要介護4」。寝たきりの方もおり、全員が車いすや介助が避難に必要となる。約二十人の職員で全員を車五台に少しずつ乗せた

め、障害者総合施設は六百人以上にもかかわらず、避難に五時間以上かかった。七十八人は万一を想定し、新型コロナウイルス感染症予防策が講じられた避難先で一晩を過ごす。嶋田施設長は「避難が早すぎるかもしれないとも思ったが、逃げ遅れて犠牲者が出るのが怖い」と話した。介護が必要な高齢者の避難について、加藤久雄市長は八日の記者会見で「できるだけ早めに避難情報を知らせなければならぬ」と説明した。(城石愛麻)

「空振りでも避難早く」

昨年十月の台風19号による千曲川の堤防決壊で被災した長野市の特別養護老人ホーム「富竹の里」では、被害が深刻化する前に入所者全員を無事に避難させていた。災害が起きてから介助が必要な高齢者を避難させるのは難しく、施設長の嶋田直人さん(仮名)は「空振りでもいいから早めの避難を」と強く呼び掛ける。

富竹の里は堤防決壊現場から約二キロ。市のハザードマップで最大五十メートルの浸水想定区域に含まれる。敷地内に二つの高齢者施設を含む三つの施設があり、入所者は計七十四人。平均年齢八十八歳、要介護度の平均は五段階の上から二番目の「要介護4」だ。寝たきりの方も多し、避難に車いすや介助者は欠かせない。

台風が接近した十月十二日午後二時半、大雨特別警報が発令されたが、吸引器を必要とする入所者もあり、嶋田さんは「避難先で電源を確保できるか、床擦れを起さないか、いくつも不安があった」。

午後八時ごろ、千曲川の水位が「氾濫注意水位」に迫り、嶋田さんは職員に入所者全員の避難を指示。周辺の道路は既に二十センチ以上冠水していた。三つの施設は全て平屋建て。上階に避難できず、災害時に入所者を避難させる協定を結んだ約六百坪先の三階建て障害者総合施設への避難を始めた。

だが、富竹の里など三施設の夜の職員は、昼間の五分の一の二十人。歩行が困難な入所者に一三人が付き添いながら、三台の車に少しずつ乗せていき、障害者総合施設と二十往復した。全員の避難を終えたのは避難開始から五時間後。千曲川は直後に越水し施設敷地内に水が押し寄せた。

「もっと早く避難を開始すべきだったかもしれない」と嶋田さん。台風19号災害を教訓に、長野県中南部が大雨に襲われた今月八日、市内で雨が強まる前に入所者全員を避難させた。

淑徳大の結城康博教授(社会福祉学)は「高齢者施設の責任者がどこまで『万が一』を考え、避難を決断できるかで入所者が救えるかが決まる」と指摘。「大雨や台風は事前に災害の発生がある程度想定できるはず。前日までに避難を済ませるか、避難を手伝える職員を夜間に多く出勤させる必要がある」と話した。(城石愛麻)

長野の特養 昨秋の台風教訓に警鐘



8日の大雨で近くの障害者総合施設に避難した「富竹の里」の入所者。長野市で

き、障害者総合施設と二十往復した。全員の避難を終えたのは避難開始から五時間後。千曲川は直後に越水し施設敷地内に水が押し寄せた。

「もっと早く避難を開始すべきだったかもしれない」と嶋田さん。台風19号災害を教訓に、長野県中南部が大雨に襲われた今月八日、市内で雨が強まる前に入所者全員を避難させた。

淑徳大の結城康博教授(社会福祉学)は「高齢者施設の責任者がどこまで『万が一』を考え、避難を決断できるかで入所者が救えるかが決まる」と指摘。「大雨や台風は事前に災害の発生がある程度想定できるはず。前日までに避難を済ませるか、避難を手伝える職員を夜間に多く出勤させる必要がある」と話した。(城石愛麻)

特養 避難態勢づくり急ぐ

県内各地の施設 誘導訓練や基準見直し

人手や避難先の確保も課題

熊本県南部を襲った豪雨で球磨村の特別養護老人ホーム「千寿園」の入所者14人の死が確認されたことを受け、県内各地の特別養護老人ホームやグループホームが避難態勢づくりを急いでいる。いつ避難するか、全員を安全に移動させるにはどうすればよいか…。人手や避難先の確保についても課題となっている。

【一面参照】

昨年10月の台風19号災害で「特養「若槻ホーム」への避難」の長野市富竹の特別養護老人ホーム「富竹の里」。6月24日、5・7時先の高台にある運び、全員避難には6、7時

昨日10月の台風19号災害で「特養「若槻ホーム」への避難」の長野市富竹の特別養護老人ホーム「富竹の里」。6月24日、5・7時先の高台にある運び、全員避難には6、7時



車で入所者を運ぶ訓練をする富竹の里職員。台風19号災害ではこの空き地に自衛隊ヘリコプターが着陸、被災者を避難先の若槻ホーム（奥の3棟）に運び込んだ＝6月25日、長野市（富竹の里提供）

自主避難基準を見直した。県指定の土砂災害警戒区域内にあり、雨で地盤が緩んでいる可能性を考えた。警戒レベル3（避難準備・高齢者等避難開始）に達する前にも、利用者を自主避難させる基準に変えたという。

松本市梓川倭の特別養護老人ホーム「サルビア」は市のハザードマップで50㍍の浸水想定区域内にある。熊本の被害も踏まえ、今月中旬に開く施設内の会議でも避難計画を再度確認する方針だ。1階の入所者ら約40人が2階に避難する計画だが、施設長の清沢秀彦さん（42）は「早い避難の決断が大切なことは間違いないが、昨年の台風19号でも判断は難しかった」とする。

間かかると分かった。施設長の嶋田直人さん（43）は「遠くても明るいうちから早めに避難すれば助かる」と話す。

当時は、避難協定を結んでいた障害者総合施設に5時間かけて全員避難させたが、「千年に1度」の雨では浸水すると市から指摘され、別の避難場所を探す。近くの小学校を避難先に検討したこともあったが、車いすでトイレに入れなかった。

近くを天竜川支流が流れる飯田市南信濃の特別養護老人ホーム「遠山荘」は、災害時などの協力協定を地元地区と結んでいるが、より広く協力相手を募ることも検討。所長の山崎元宏さん（55）は「避難先で利用者がどう過ごすのかなど不安も多い」と言う。

社会福祉法人の敬老園（上田市）は6日、上田市内のグループホーム1施設の当面の

北安曇郡松川村の特別養護老人ホーム「ライブ松川」は高瀬川沿いに位置し、記録的な大雨が発生すれば1階の浸水被害が予想される。同施設の担当者は「実際の災害時に適切に対応できるよう引き締めなければならない」と話した。

(参考・引用文献)

- ・フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』 令和2年7月豪雨
- ・毎日新聞ニュース 大雨を降らせるメカニズム 施設写真
- ・国土交通省北陸地方整備局 千曲川河川事務所 ウェブサイト
- ・長野市災害情報ポータル
- ・国土交通省 川の防災情報
- ・気象庁 ウェブサイト

社会福祉法人光仁会富竹の里

発行 令和2年7月

責任者 施設長 嶋田 直人

〒381-0006 長野市大字富竹 1621 番地

TEL026-296-7383 FAX026-296-7384

<http://tomitake-carenet.com>